

6 がん検診について

6-1 がん検診の受診状況

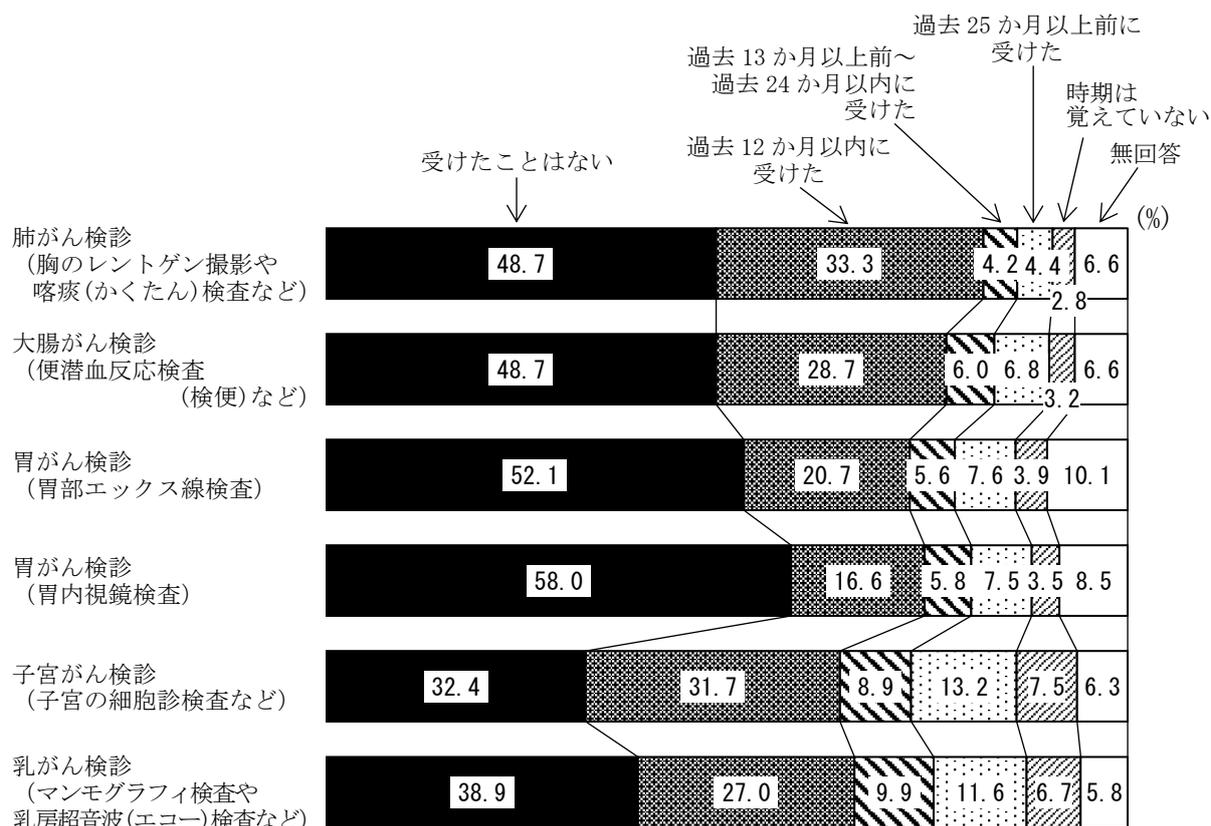
◎「肺がん検診」を<過去1年以内に受けた>が 33.3%、女性対象のがん検診を<過去2年以内に受けた>のは、「子宮がん検診」が 40.6%で、「乳がん検診」が 36.9%

問15. あなたは、これまでにがん検診またはがんの検査を含む健康診断や人間ドック等を受けたことがありますか。受けたことがある場合には、一番最近受けた時期と機会を教えてください。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表6-1 がん検診の受診状況

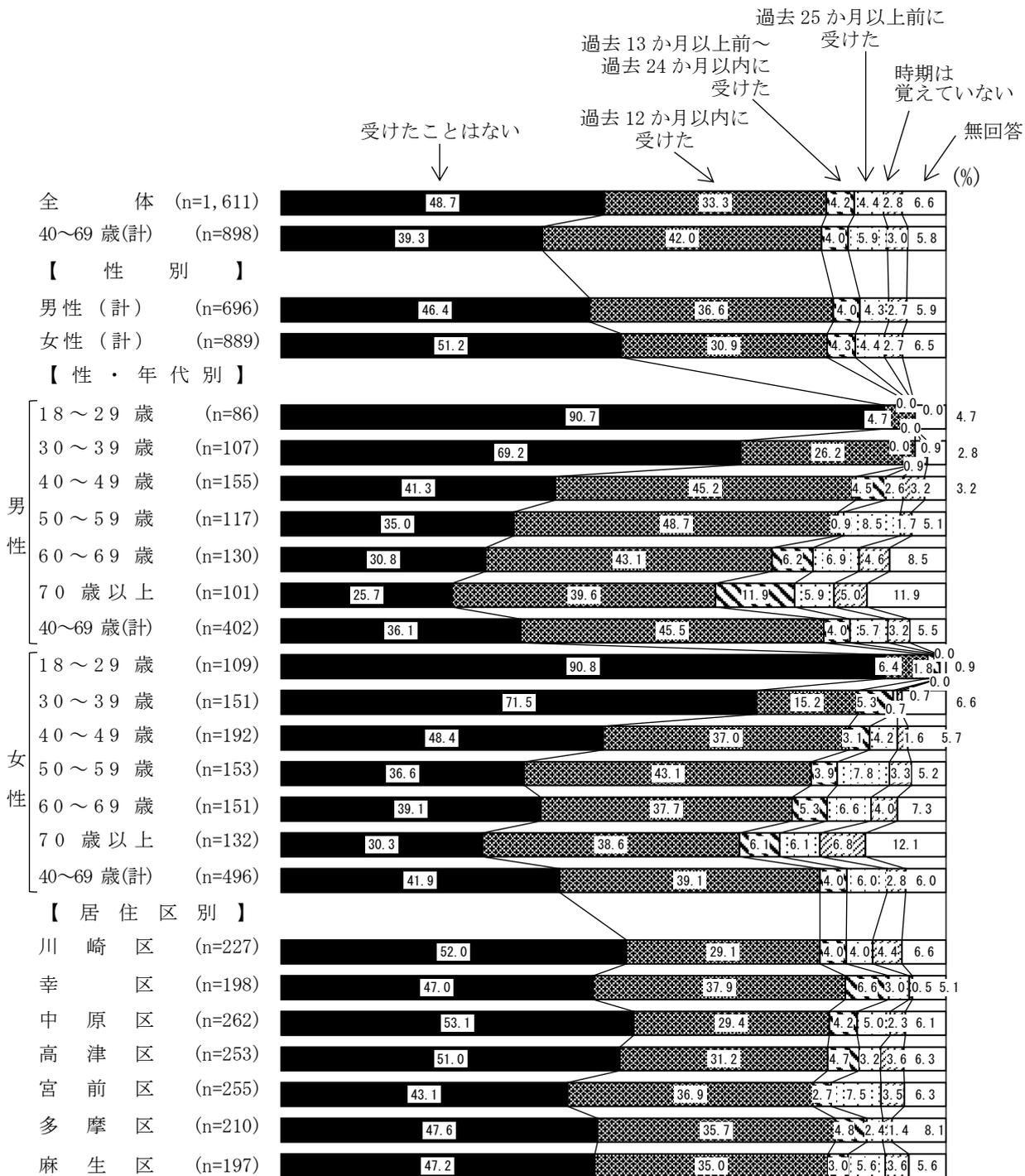
複数回答 (n=1,611)

※ただし、「子宮がん検診」と「乳がん検診」は女性に占める割合を示す (n=889)



過去1年以内にがん検診を受診した人の割合は「肺がん検診」(33.3%)、「大腸がん検診」(28.7%)、「胃がん検診(胃部エックス線検査)」(20.7%)、「胃がん検診(胃内視鏡検査)」(16.6%)となっている。また、過去2年以内に女性対象のがん検診を受診した人の割合は「子宮がん検診」が 40.6%で、「乳がん検診」が 36.9%となっている。

図表6-2 肺がん検診(胸のレントゲン撮影や喀痰(かくたん)検査など)の受診状況
(性/年齢別・居住区別)

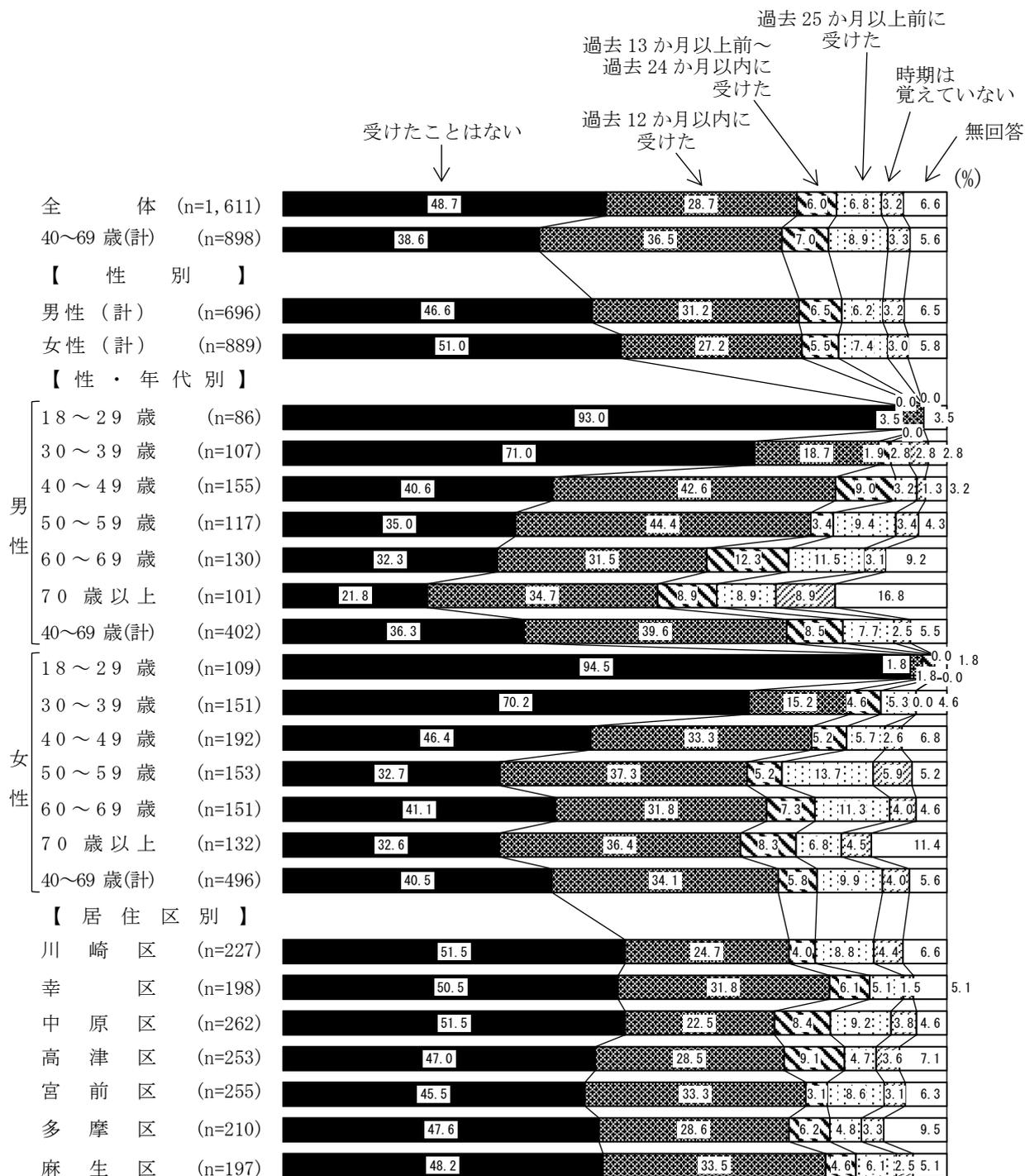


過去1年以内に受診した人の割合は、性/年齢別では、男性の50～59歳が48.7%で最も高く、次いで、男性の40～49歳(45.2%)、男性の60～69歳(43.1%)、女性の50～59歳(43.1%)までが4割を超えている。

居住区別では、幸区が37.9%で最も高く、次いで宮前区(36.9%)、多摩区(35.7%)、麻生区(35.0%)の順となっている。

がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における肺がん検診受診率算出の対象年齢である40～69歳では、42.0%となっている。

図表6-3 大腸がん検診(便潜血反応検査(検便)など)の受診状況(性/年齢別・居住区別)

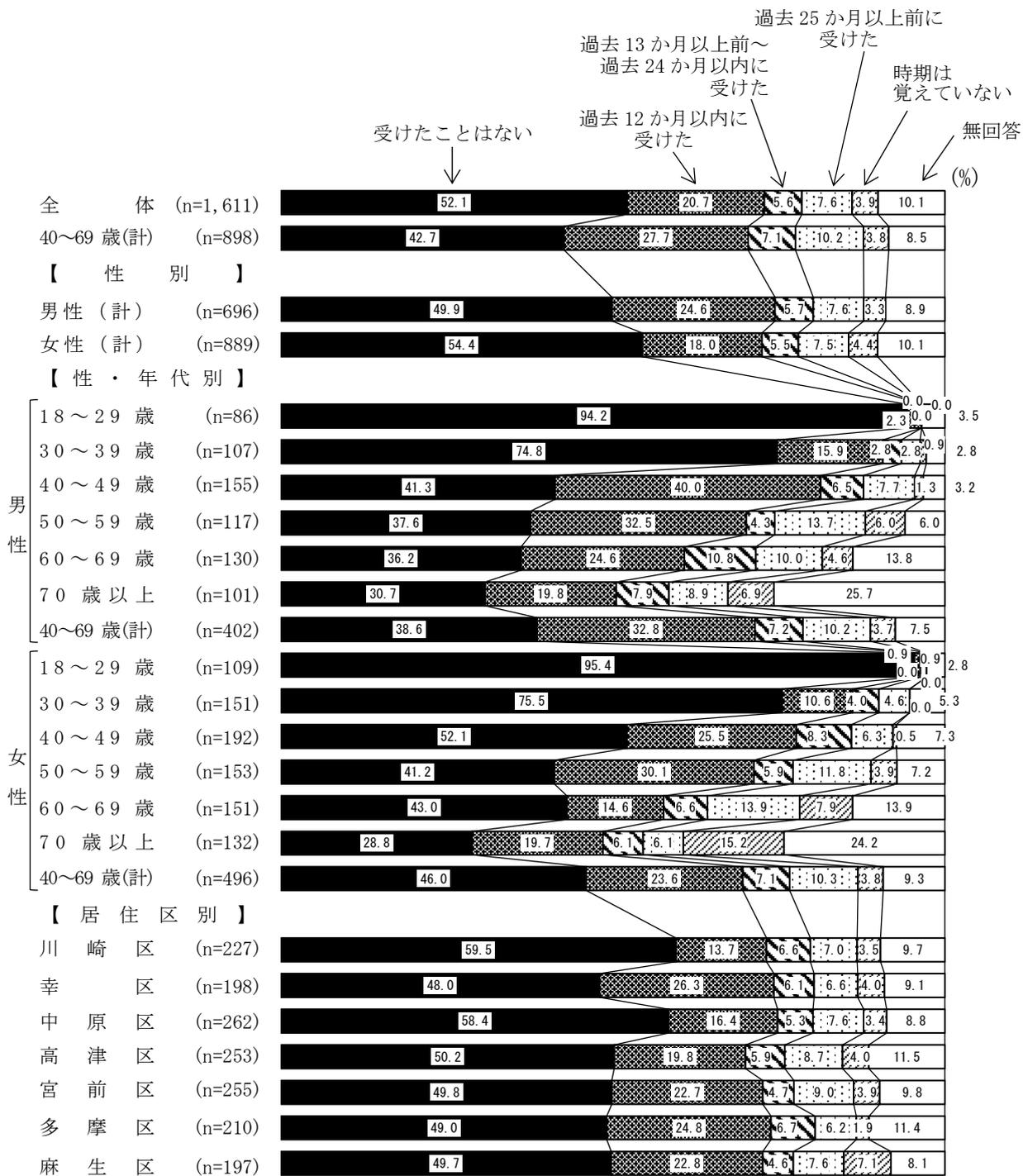


過去1年以内に受診した人の割合は、性/年齢別では、男性の50～59歳が44.4%で最も高く、次いで、男性の40～49歳(42.6%)、女性の50～59歳(37.3%)の順となっている。

居住区別では、麻生区(33.5%)、宮前区(33.3%)、幸区(31.8%)で3割を超えている。最も低いのは、対象者中の39歳以下の割合が他の区に比べ高い中原区で、22.5%となっている。

がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における大腸がん検診受診率算出の対象年齢である40～69歳では、36.5%となっている。

図表6-4 胃がん検診(胃部エックス線検査)の受診状況(性/年齢別・居住区別)

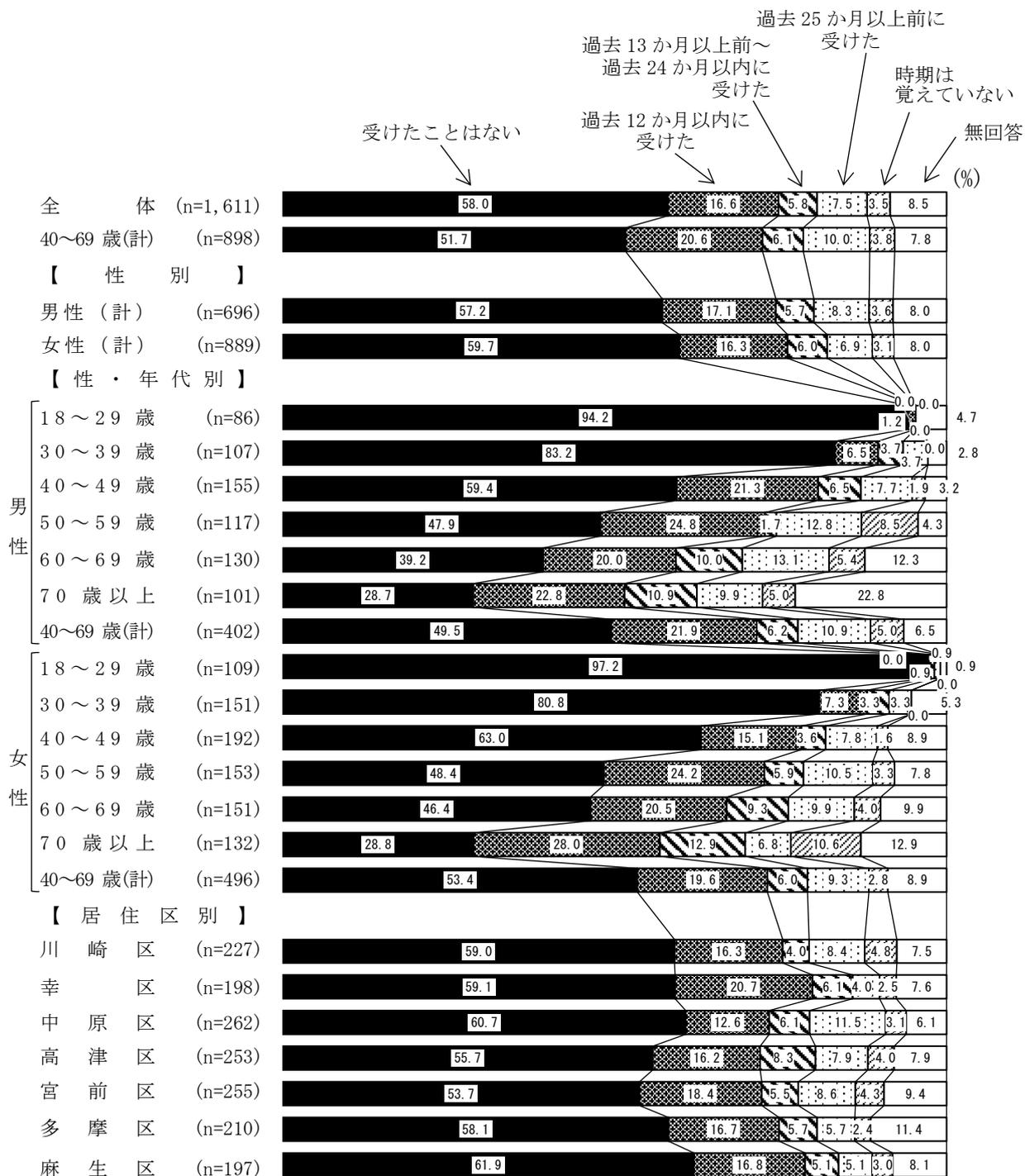


過去1年以内に受診した人の割合は、性/年齢別では、男性の40～49歳が40.0%で最も高く、次いで、男性の50～59歳(32.5%)、女性の50～59歳(30.1%)の順となっている。

居住区別では、幸区が26.3%で最も高く、次いで多摩区(24.8%)、麻生区(22.8%)、宮前区(22.7%)の順で、最も低いのは川崎区で13.7%となっている。

がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における胃がん検診受診率算出の対象年齢である40～69歳では、27.7%となっている。

図表6-5 胃がん検診(胃内視鏡検査)の受診状況(性/年齢別・居住区別)

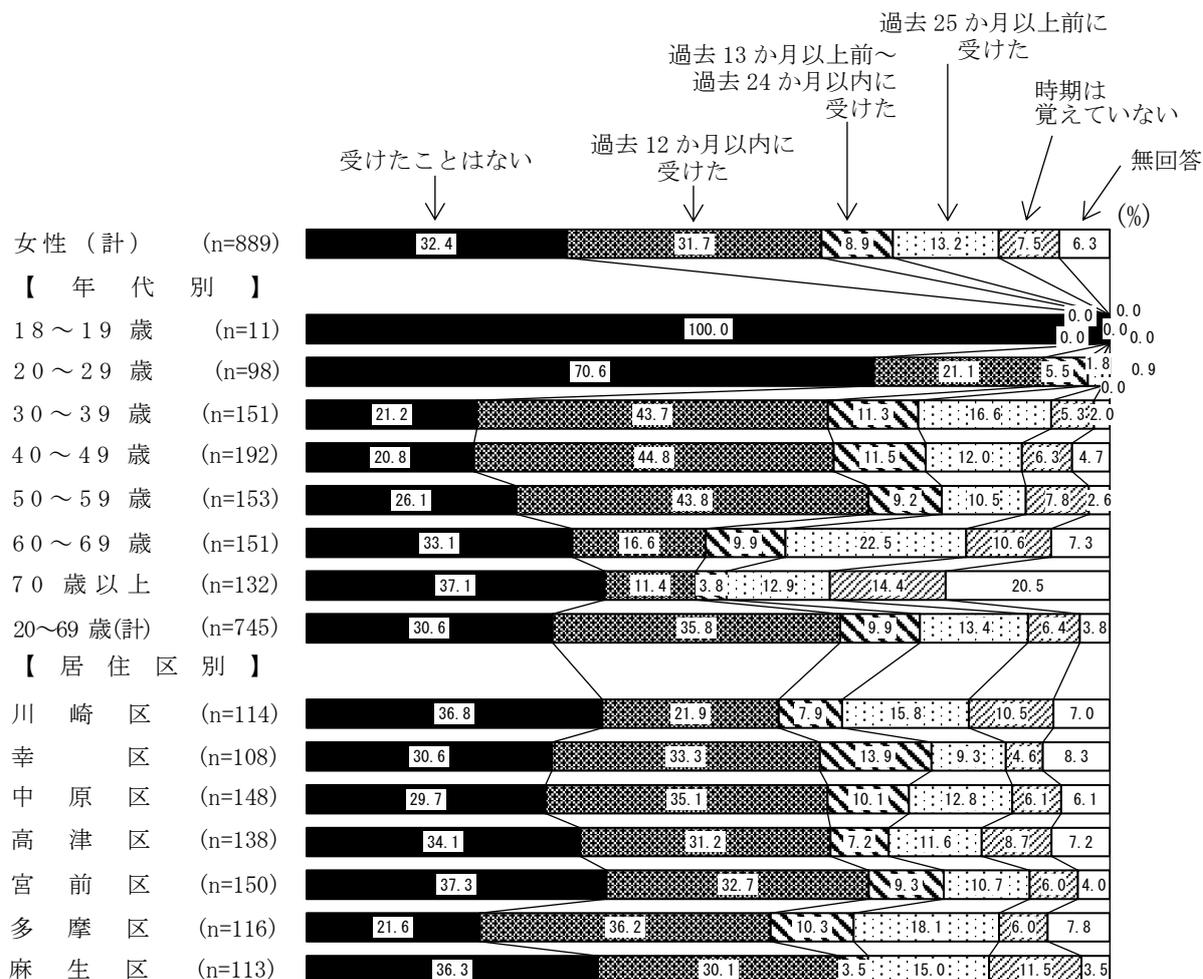


過去1年以内に受診した人の割合は、性/年齢別では、男性の40歳以上、女性の50歳以上の年代で2割を超えている。

居住区別では、幸区が20.7%で最も高く、次いで宮前区(18.4%)の順で、最も低いのは中原区で12.6%となっている。

がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における胃がん検診受診率算出の対象年齢である40～69歳では、20.6%となっている。

図表6-6 子宮がん検診(子宮の細胞診検査など)の受診状況(年齢別・居住区別)

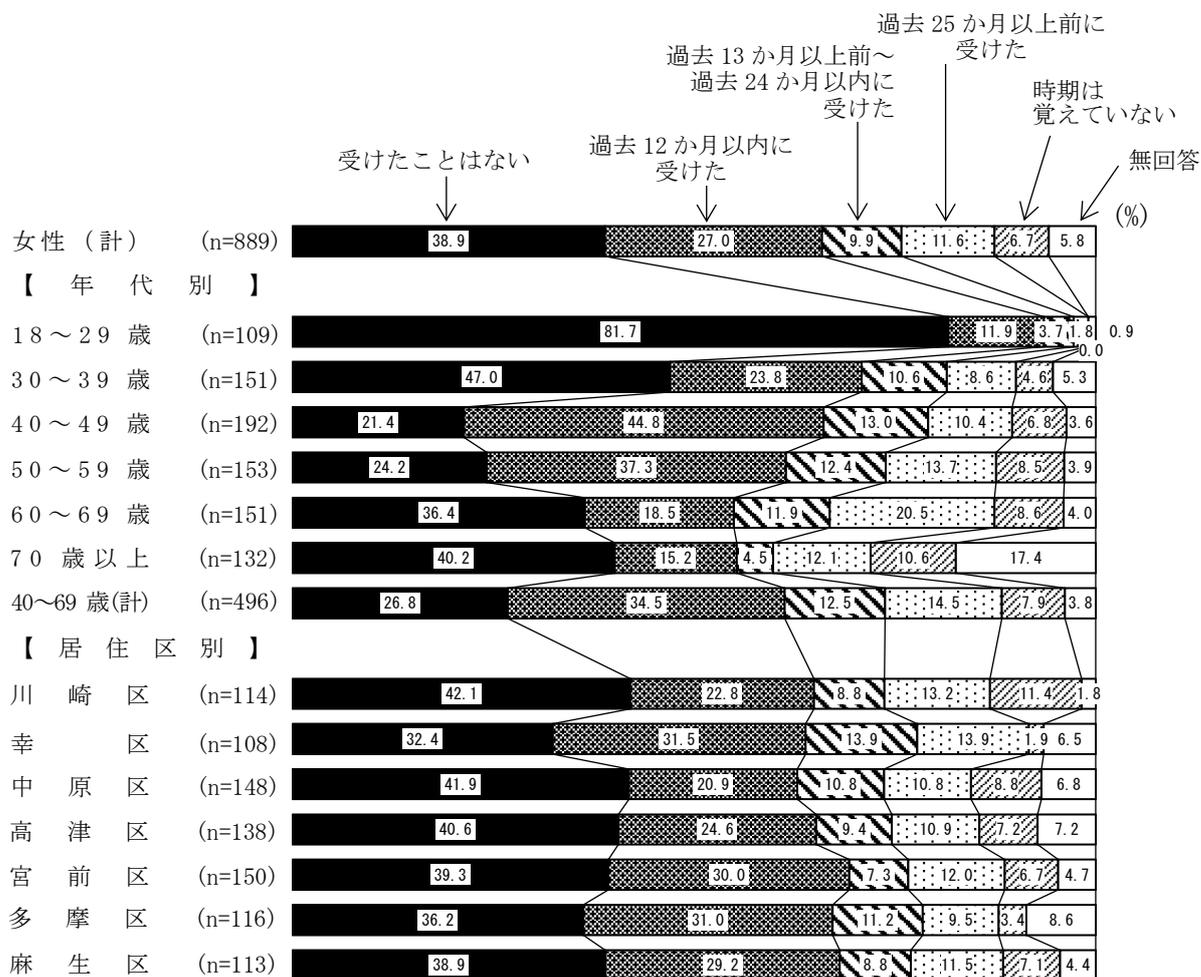


過去2年以内に受診した人の割合は、性/年齢別では、30歳以上59歳以下の年代で5割を超え、その前後の20～29歳と60～69歳では25%程度と受診率が約半分のレベルになっている。

居住区別では、幸区が47.2%で最も高く、次いで多摩区(46.6%)、中原区(45.3%)の順で、最も低いのは川崎区で29.8%となっている。

がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における子宮がん検診受診率算出の対象年齢である20～69歳では、45.8%となっている。

図表6-7 乳がん検診(マンモグラフィ検査や乳房超音波(エコー)検査など)の受診状況
(年齢別・居住区別)



過去2年以内に受診した人の割合は、性/年齢別では、40～49歳が57.8%で最も高く、次いで50～59歳(49.7%)、30～39歳(34.4%)、60～69歳(30.5%)の順となり、18～29歳と70歳以上では2割を下回っている。

居住区別では、幸区が45.4%で最も高く、次いで多摩区(42.2%)の順で、最も低いのは川崎区で31.6%となっている。

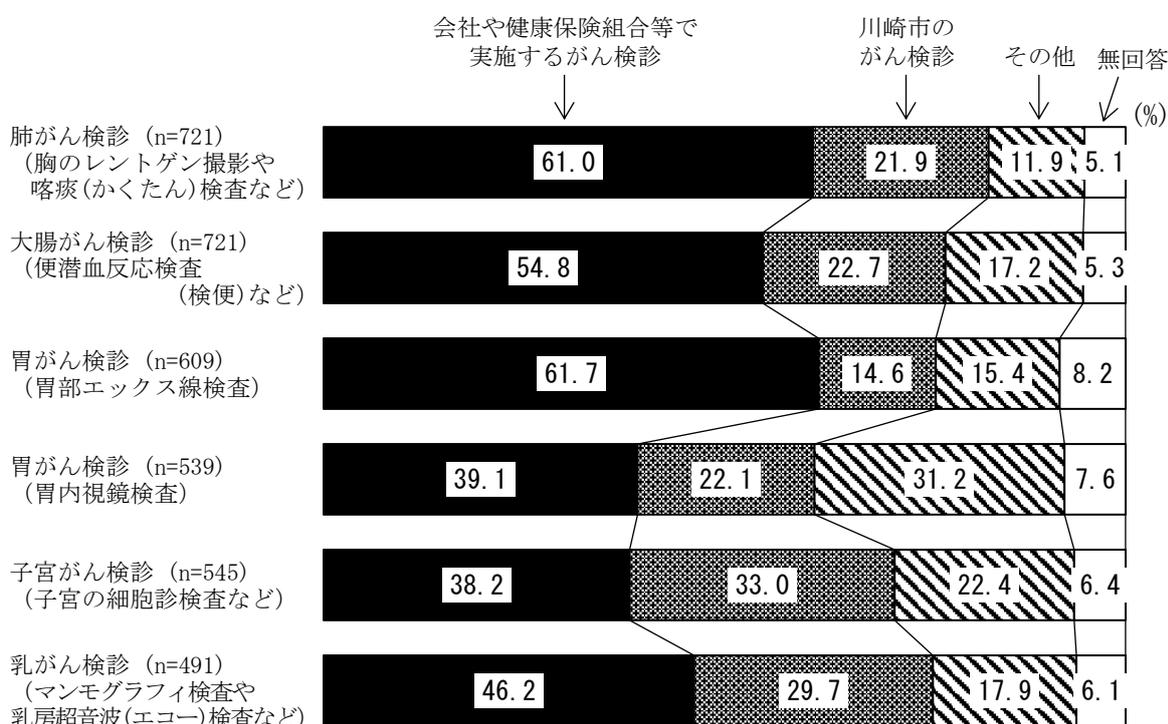
がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における乳がん検診受診率算出の対象年齢である40～69歳では、47.0%となっている。

6-2 がん検診を受診した機会

◎「胃がん検診（胃部エックス線検査）」の受診機会は「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」が61.7%

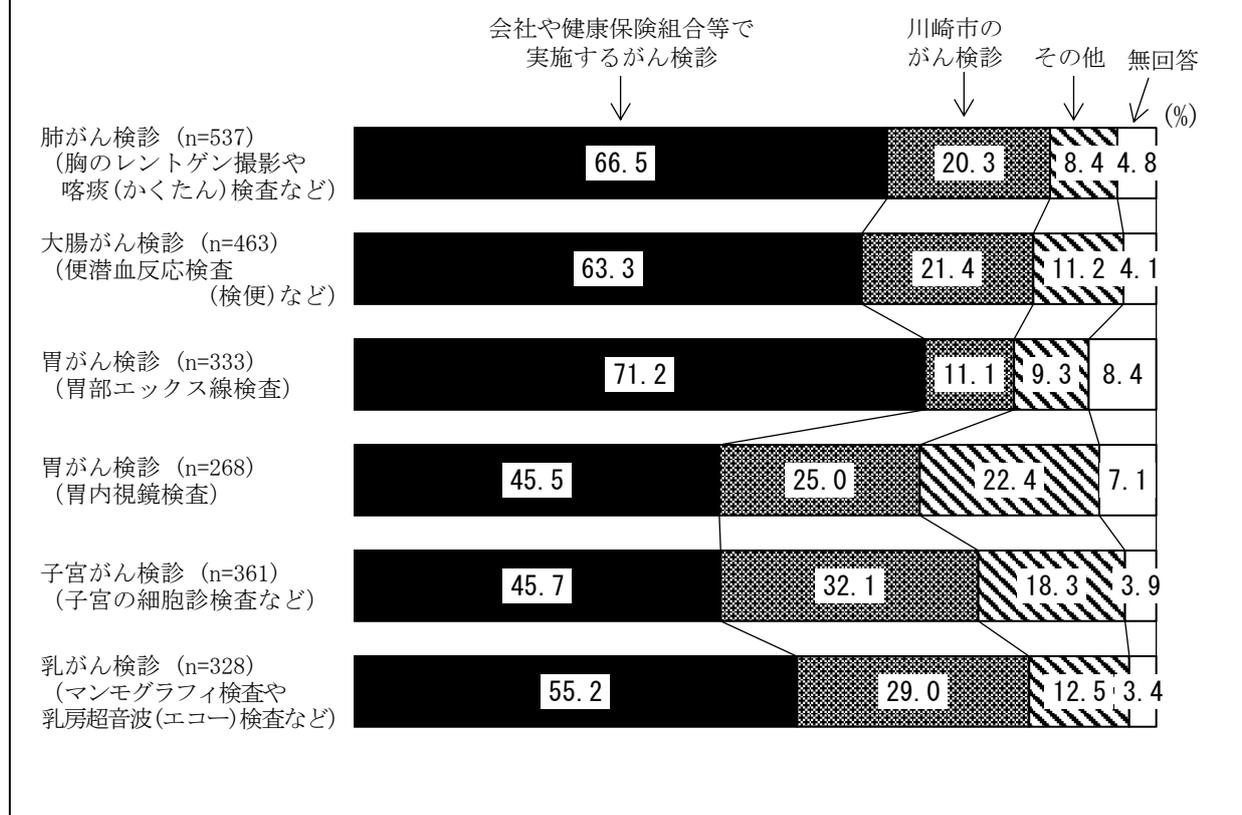
問15. あなたは、これまでにがん検診またはがんの検査を含む健康診断や人間ドック等を受けたことがありますか。受けたことがある場合には、一番最近受けた時期と機会を教えてください。（〇はそれぞれ1つずつ）

図表6-8 がん検診の受診機会



いずれの検診においても「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」を受診した人の割合が最も高く、中でも「胃がん検診(胃部エックス線検査)」「肺がん検診」「大腸がん検診」では、受診者の6割前後が「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」を受診している。なお、女性対象のがん検診では、他の検診に比べ「川崎市のがん検診」を受診した人の割合が高くなっている。

図表6-9 がん検診の受診機会
 (肺がん検診・大腸がん検診・胃がん検診は過去1年以内、
 子宮がん検診・乳がん検診は過去2年以内)



「肺がん検診」「大腸がん検診」「胃がん検診(胃部エックス線検査)」「胃がん検診(胃内視鏡検査)」は過去1年以内に受診した人について、「子宮がん検診」「乳がん検診」は過去2年以内に受診した人について見ると、いずれの検診においても「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」を受診した人の割合が最も高く、中でも「胃がん検診(胃部エックス線検査)」「肺がん検診」「大腸がん検診」では、過去1年以内受診者の6~7割が「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」を受診している。なお、女性対象のがん検診では、他の検診に比べ「川崎市のがん検診」を受診した人の割合が高くなっている。

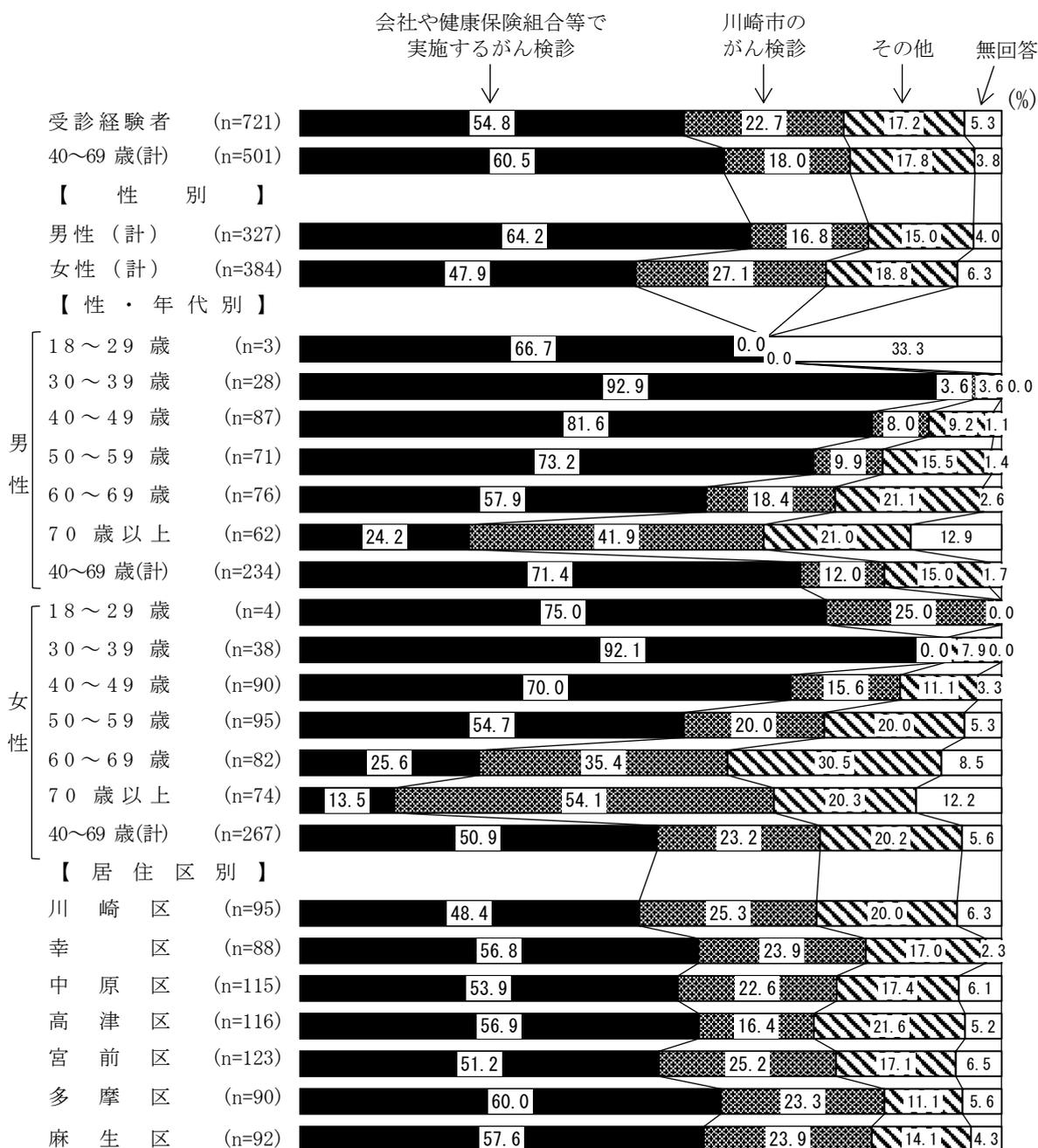
図表6-10 肺がん検診(胸のレントゲン撮影や喀痰(かくたん)検査など)の受診機会
(性/年齢別・居住区別)



性/年齢別では、男性の40歳以上69歳以下の年代、女性の40~49歳と50~59歳では、「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」が最も高い。一方、男女ともに70歳以上では「川崎市のがん検診」が最も高い。なお、女性の60~69歳では、「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」と「川崎市のがん検診」がほぼ同程度となっている。

がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における肺がん検診受診率算出の対象年齢である40~69歳では「川崎市のがん検診」が、15.0%となっている。

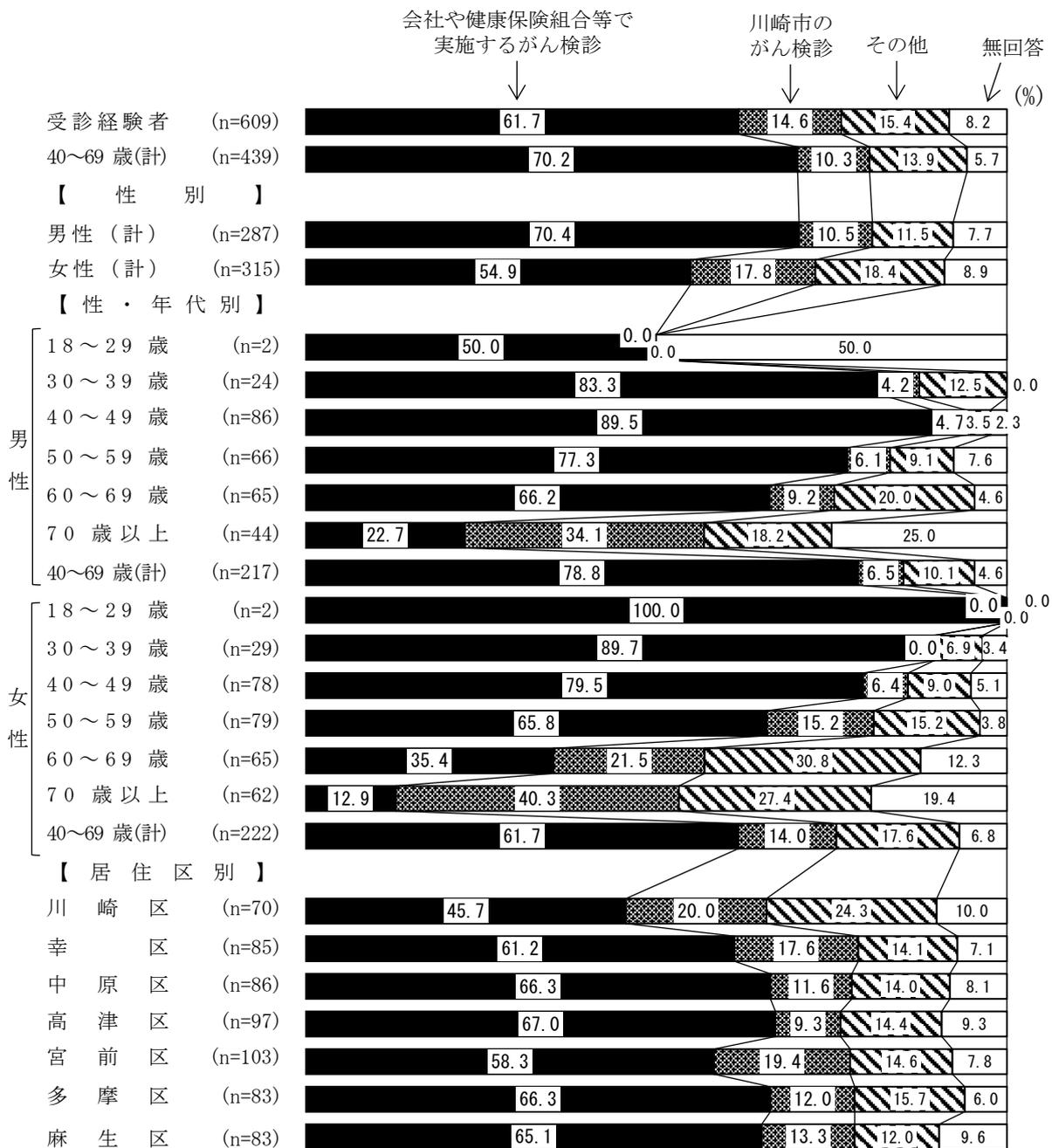
図表6-11 大腸がん検診(便潜血反応検査(検便)など)の受診機会
(性/年齢別・居住区別)



性/年齢別では、男性の40歳以上69歳以下の年代、女性の40~49歳と50~59歳では、「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」が最も高い。一方、男女ともに70歳以上では「川崎市のがん検診」が最も高い。なお、女性の60~69歳では、「川崎市のがん検診」と「その他」がほぼ同程度となっている。

がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における大腸がん検診受診率算出の対象年齢である40~69歳では「川崎市のがん検診」が、18.0%となっている。

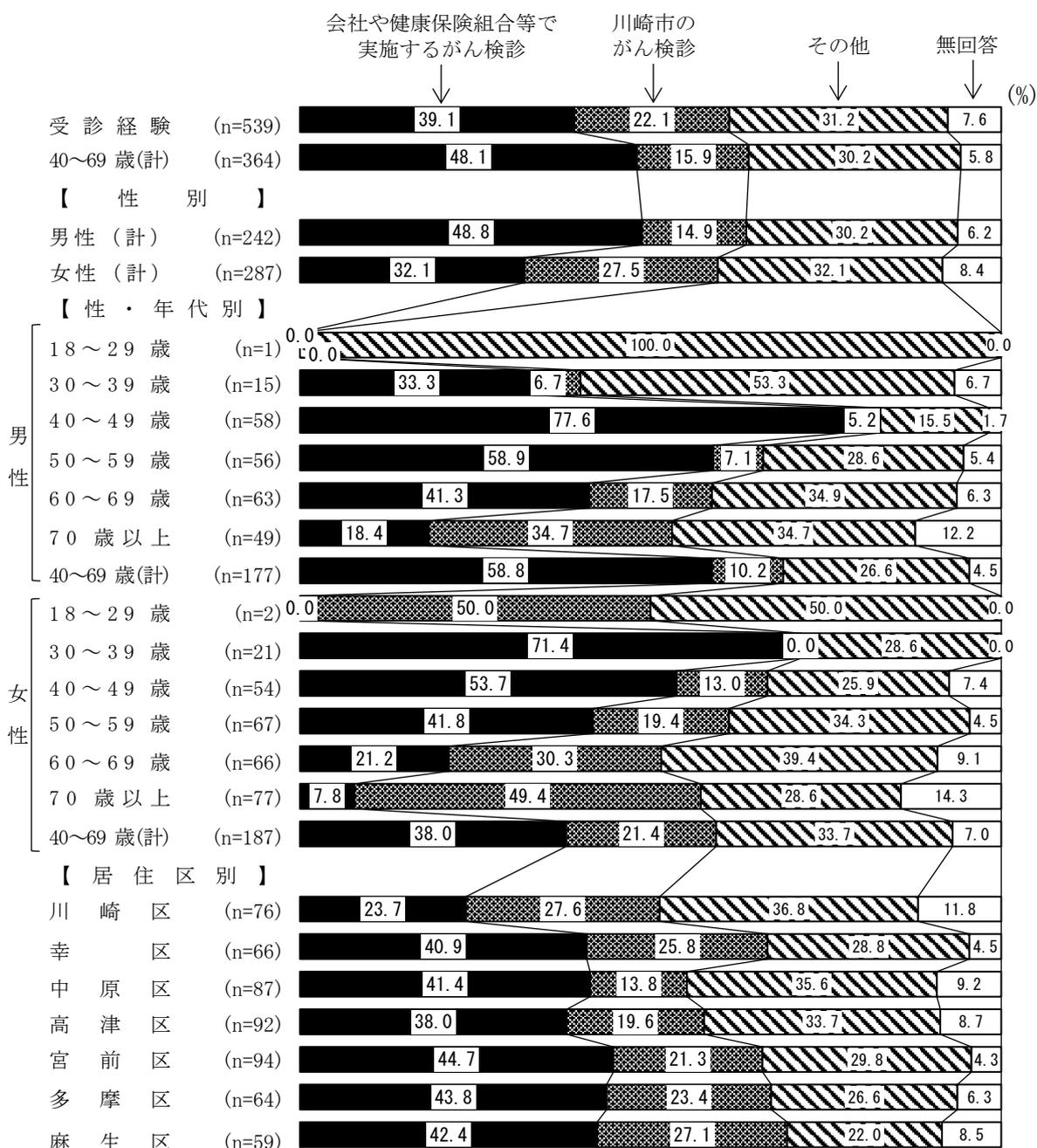
図表6-12 胃がん検診(胃部エックス線検査)の受診機会(性/年齢別・居住区別)



性/年齢別では、男性の40歳以上69歳以下の年代、女性の40~49歳と50~59歳では、「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」が最も高い。一方、男女ともに70歳以上では「川崎市のがん検診」が最も高い。なお、女性の60~69歳では、「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」と「その他」がほぼ同程度となっている。

がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における胃がん検診受診率算出の対象年齢である40~69歳では「川崎市のがん検診」が、10.3%となっている。

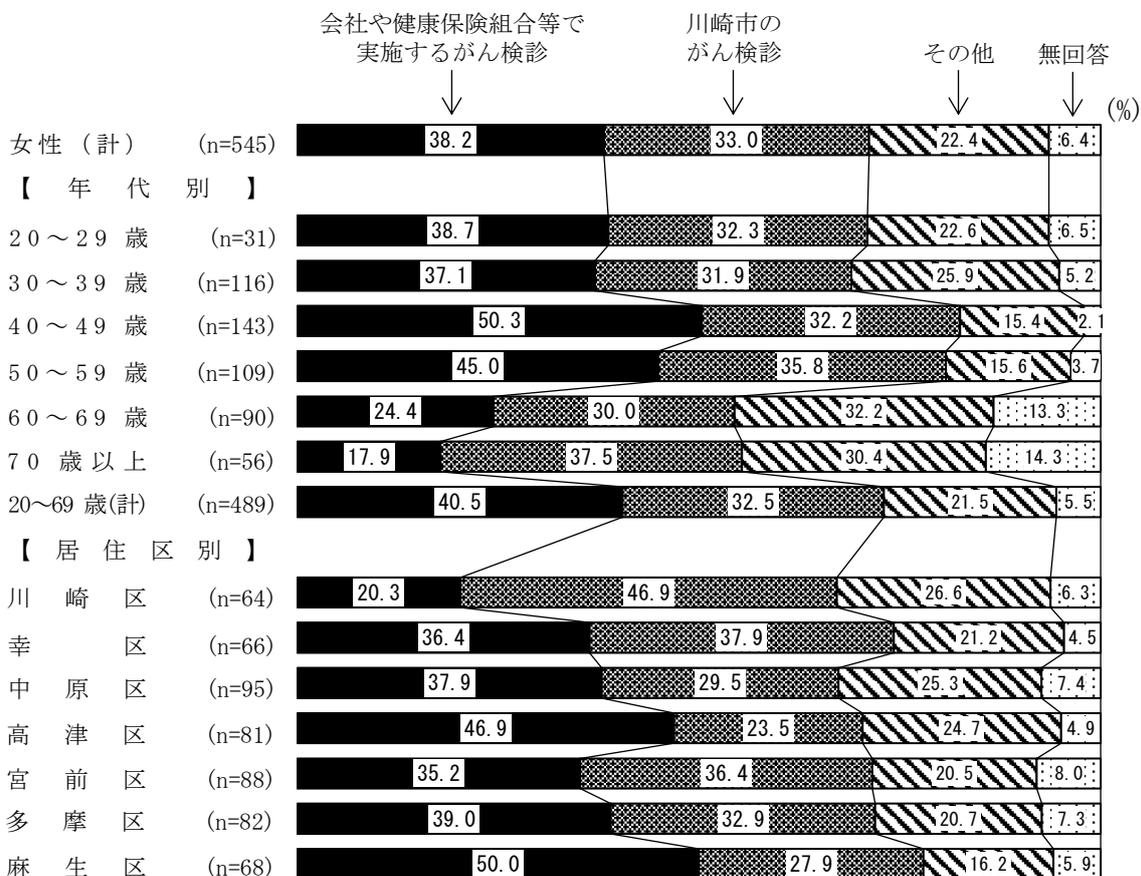
図表6-13 胃がん検診(胃内視鏡検査)の受診機会(性/年齢別・居住区別)



性/年齢別では、男性の40歳以上69歳以下の年代、女性の40~49歳と50~59歳では、「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」が最も高い。女性の70歳以上では「川崎市のがん検診」が最も高く、男性の70歳以上では「川崎市のがん検診」と「その他」が同程度、女性の60~69歳では「その他」が最も高くなっている。

がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における胃がん検診受診率算出の対象年齢である40~69歳では「川崎市のがん検診」が、15.9%となっている。

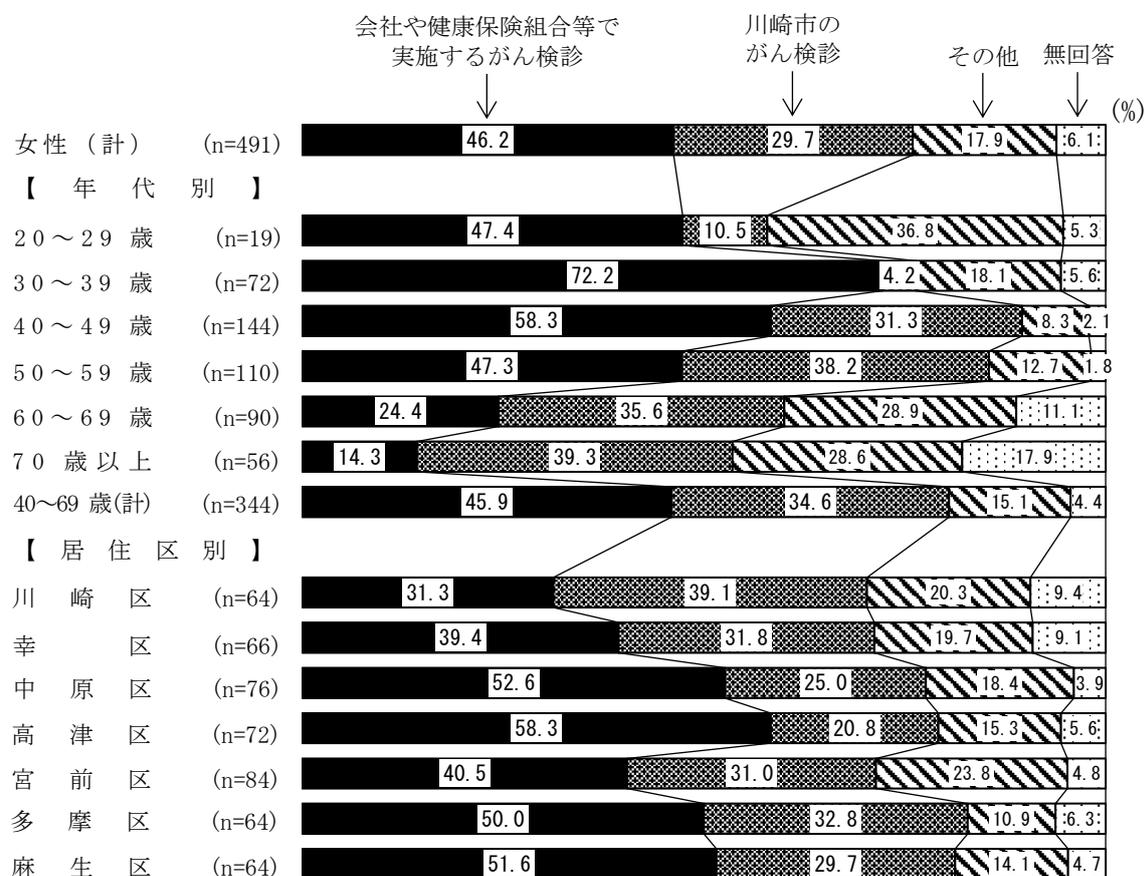
図表6-14 子宮がん検診(子宮の細胞診検査など)の受診機会(年齢別・居住区別)



性/年齢別では、59歳以下の年代では、「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」が最も高く、60~69歳では「その他」と「川崎市のがん検診」や「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」が同程度であり、70歳以上では「川崎市のがん検診」が最も高い。

がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における子宮がん検診受診率算出の対象年齢である20~69歳では「川崎市のがん検診」が、32.5%となっている。

図表6-15 乳がん検診(マンモグラフィ検査や乳房超音波(エコー)検査など)の受診機会
(年齢別・居住区別)



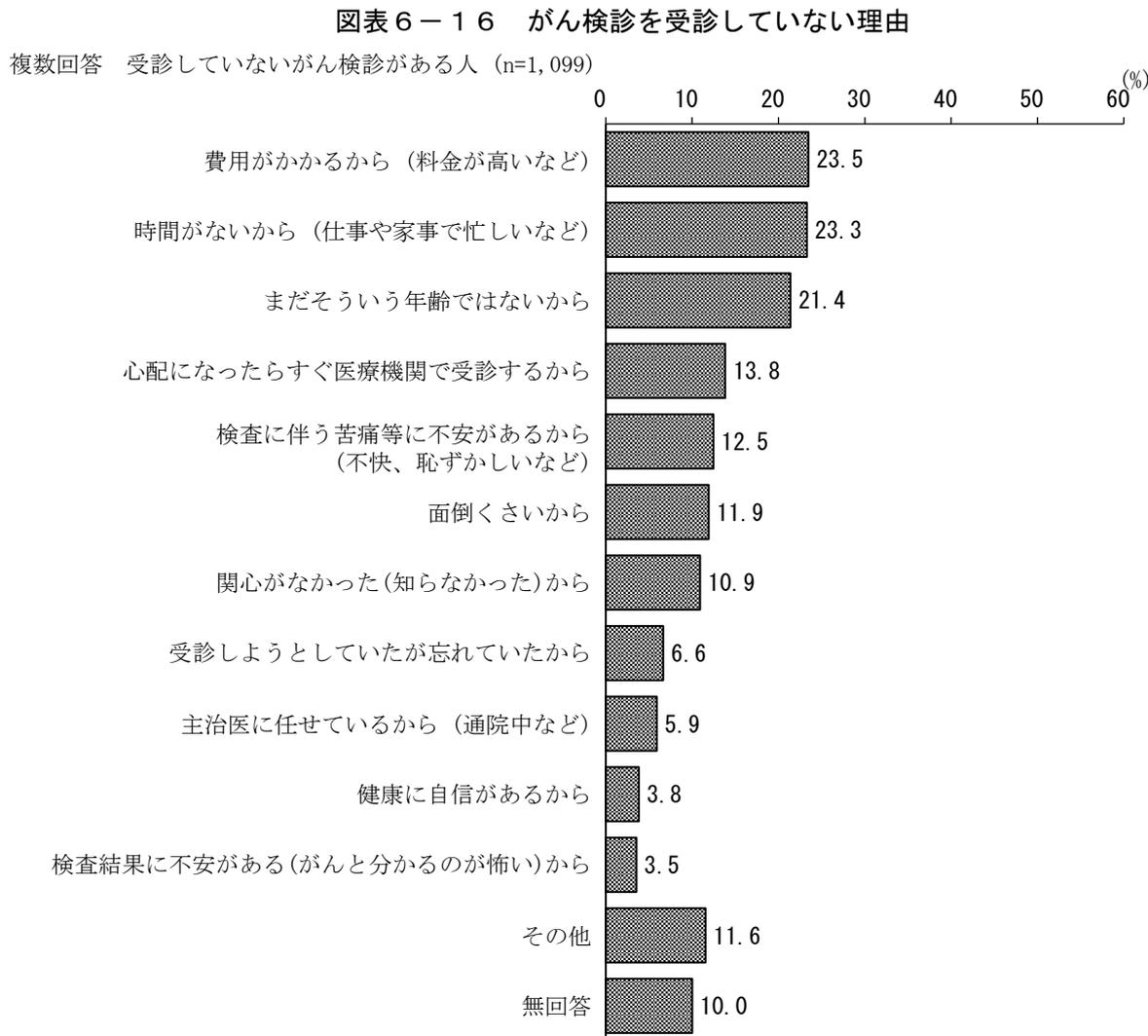
性／年齢別では、30 歳以上 59 歳以下の年代では、「会社や健康保険組合等で実施するがん検診」が最も高く、60～69 歳と 70 歳以上では「川崎市のがん検診」が最も高い。

がん対策推進基本計画(平成 29 年 10 月 24 日閣議決定)における乳がん検診受診率算出の対象年齢である 40～69 歳では「川崎市のがん検診」が、34.6%となっている。

6-3 がん検診を受診していない理由

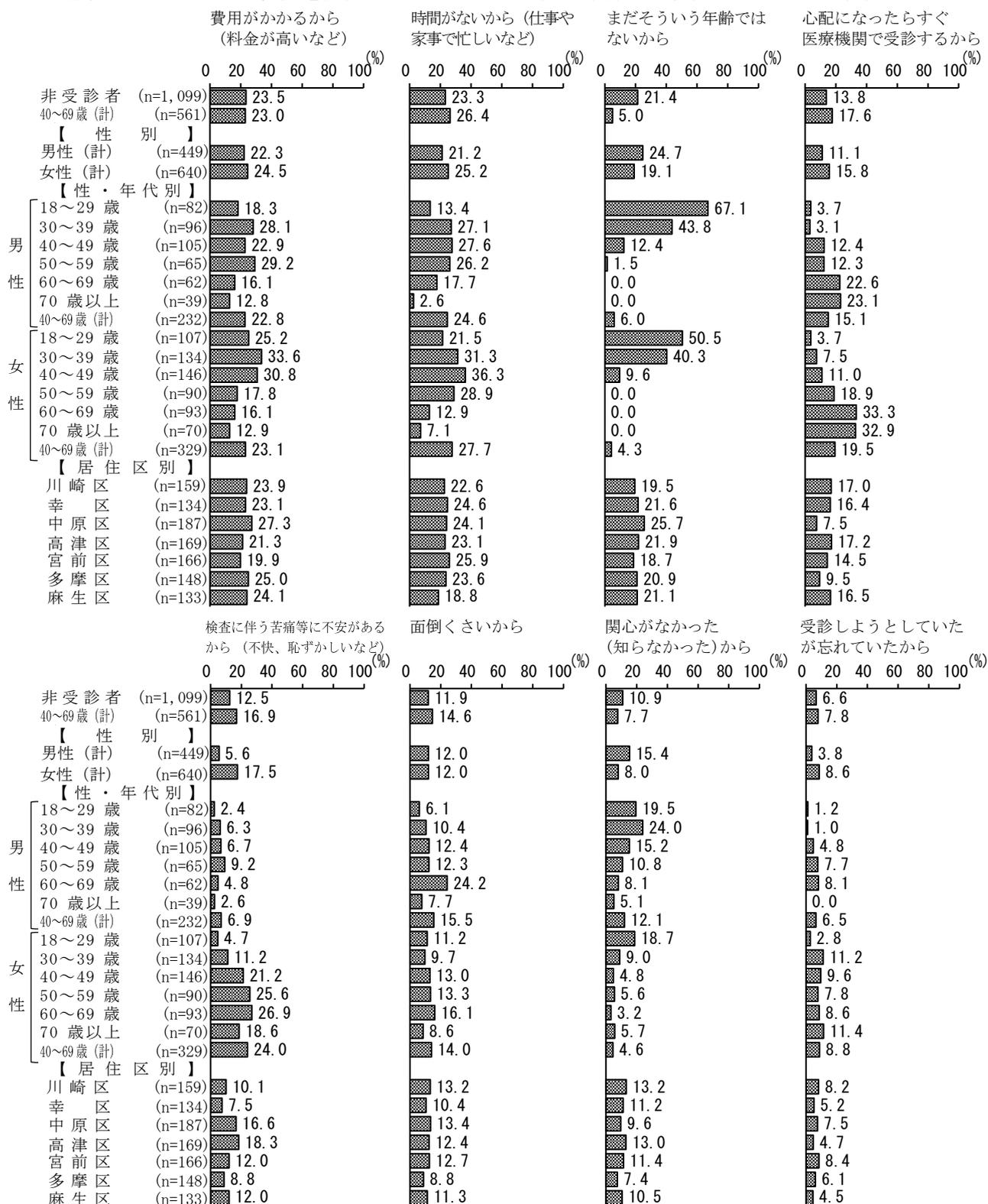
◎「費用がかかるから（料金が高いなど）」が23.5%

問16. あなたが、がん検診（検査）を受診していない理由は何ですか。（〇はいくつでも）



がん検診を受診していない主な理由は、「費用がかかるから（料金が高いなど）」（23.5%）、「時間がないから（仕事や家事で忙しいなど）」（23.3%）、「まだそういう年齢ではないから」（21.4%）などとなっている。

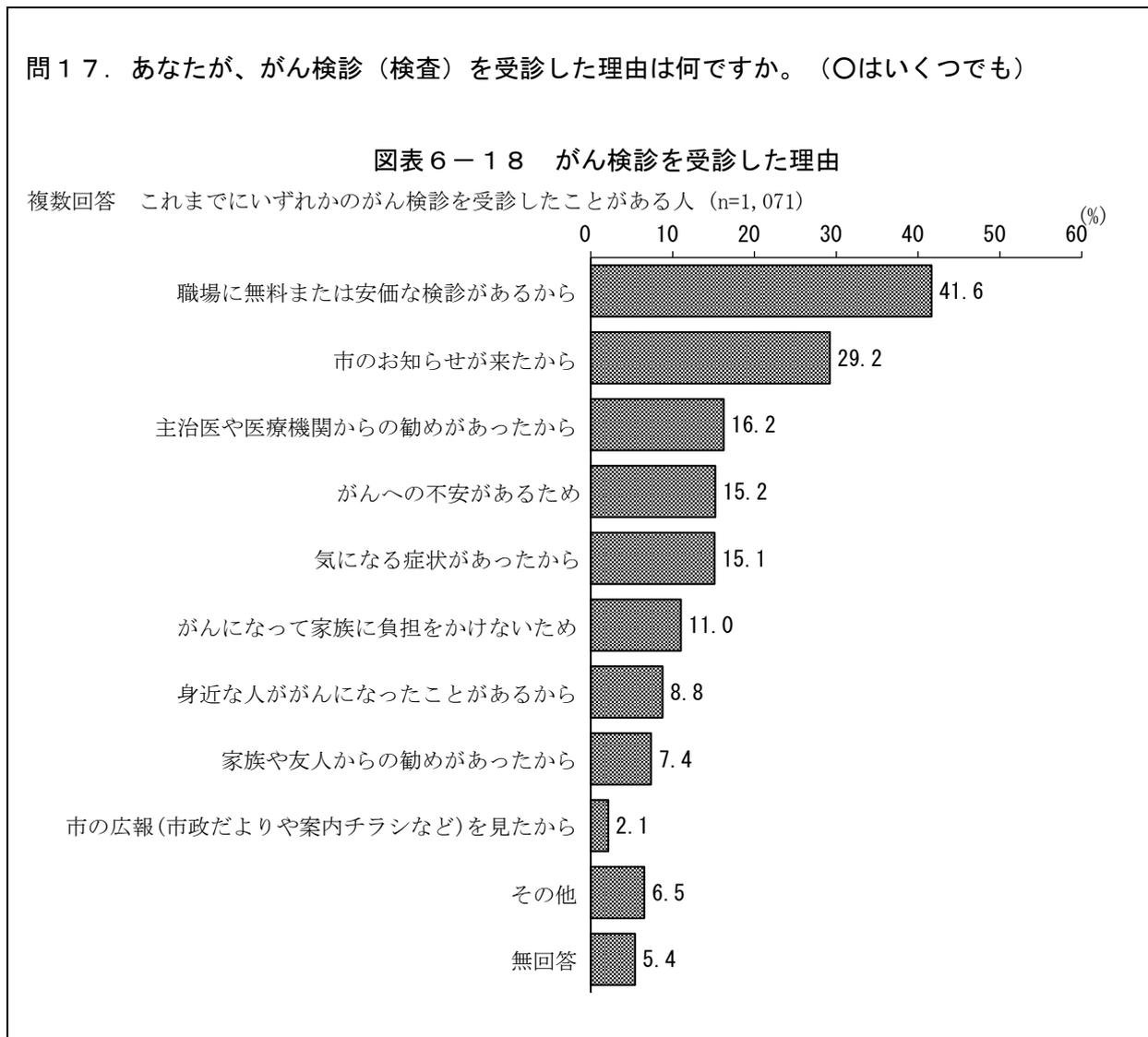
図表6-17 がん検診を受診していない理由(性/年齢別・居住区別、上位8項目)



性/年齢別では「費用がかかるから(料金が高等いなど)」「時間がないから(仕事や家事で忙しいなど)」は、男性の30歳以上59歳以下の年代と女性の49歳以下の年代で2~3割程度となっている。がん対策推進基本計画(平成29年10月24日閣議決定)における受診率算出の対象年齢では、女性の50~59歳と60~69歳で「心配になったらすぐ医療機関で受診するから」が3割を超え、男性の60~69歳で「面倒くさいから」が24.2%と高くなっている。

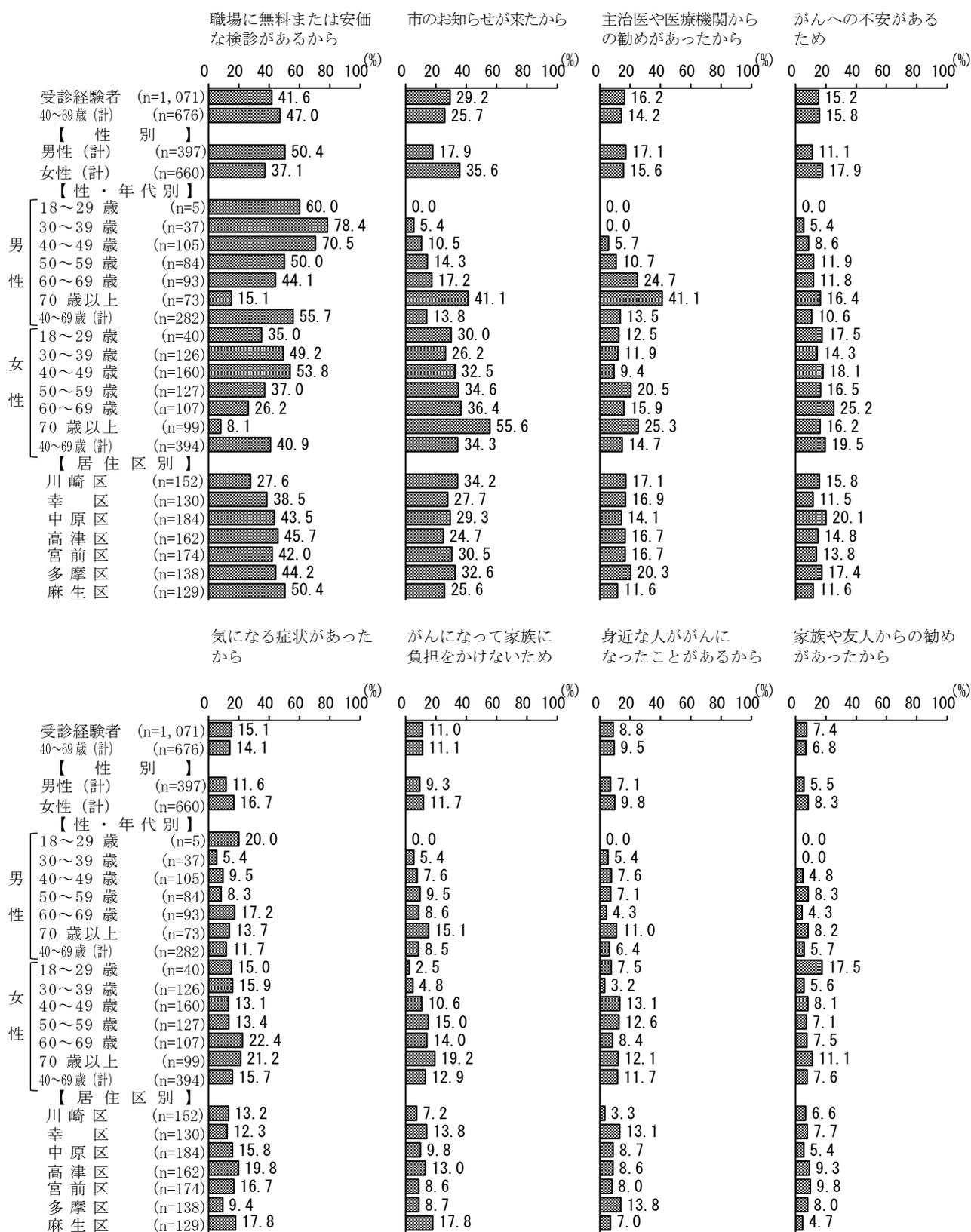
6-4 がん検診を受診した理由

◎「職場に無料または安価な検診があるから」が41.6%



がん検診を受診した理由は、「職場に無料または安価な検診があるから」(41.6%)が最も多く、次いで「市のお知らせが来たから」(29.2%)、「主治医や医療機関からの勧めがあったから」(16.2%)、「がんへの不安があるため」(15.2%)、「気になる症状があったから」(15.1%)の順となっている。

図表6-19 がん検診を受診した理由(性/年齢別・居住区別、上位8項目)



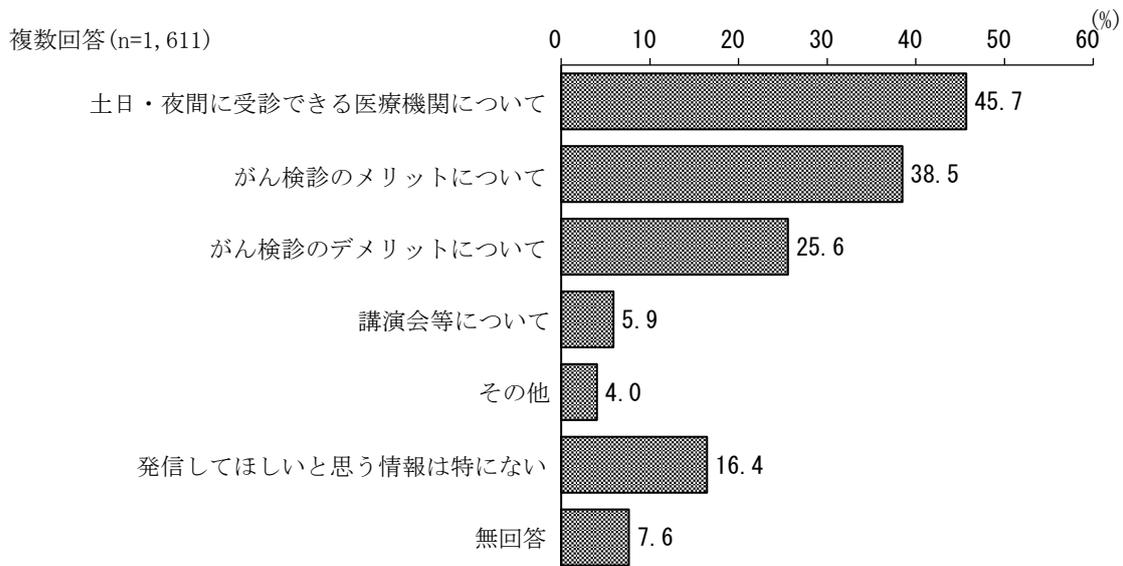
性/年齢別では、「職場に無料または安価な検診があるから」は、男女ともに年代が若い方が高い傾向となっている。「市のお知らせが来たから」は、女性の70歳以上(55.6%)、男性の70歳以上(41.1%)の順であるが、女性では69歳以下の年代でも3割前後となっている。

6-5 がん検診について、市から発信して欲しい情報

◎「土日・夜間に受診できる医療機関について」が45.7%

問18. あなたは、がん検診について、どのような情報を川崎市から発信してほしいと思いますか。(〇はいくつでも)

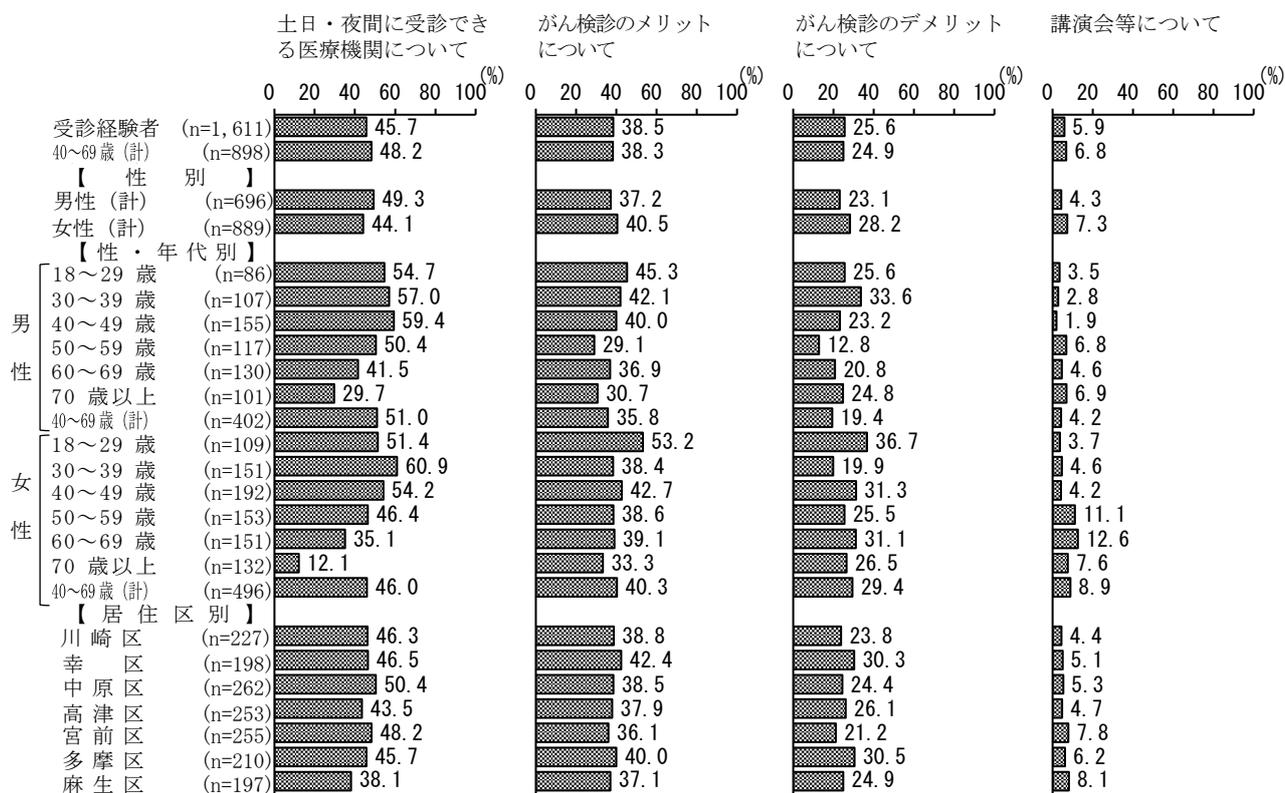
図表6-20 市から発信して欲しい情報



がん検診について、市から発信して欲しい情報は、「土日・夜間に受診できる医療機関について」が45.7%で最も高く。次いで、「がん検診のメリットについて」(38.5%)、「がん検診のデメリットについて」(25.6%)の順となっている。

一方で、「発信してほしいと思う情報は特にない」とする人も16.4%となっている。

図表6-21 市から発信して欲しい情報(性/年齢別・居住区別、上位4項目)



性/年齢別では、「土日・夜間に受診できる医療機関について」は、男性の59歳以下の年代と女性の49歳以下の年代で5割を超えている。「がん検診のメリットについて」は、女性の18~29歳で53.2%と最も高い。なお、女性の18~29歳では、「がん検診のデメリットについて」も36.7%となっている。